

日本子ども社会学会

第18回大会 プログラム

2011年7月2日(土)・3日(日)

明星大学

日本子ども社会学会 第18回大会

大会の日程

1. 期 日 2011 年 7 月 2 日（土）・3 日（日） 2 日間

2. 会 場 明星大学

3. 日 程

前 日 7 月 1 日（金）

15 : 00～16 : 30

現・各種委員会（27 号館 8 階 27-817 等）

会計監査（27 号館 8 階 27-813）

17 : 00～19 : 00

現・理事会（27 号館 8 階 27-817）

第 1 日 7 月 2 日（土）

9 : 00～

受付（28 号館 3 階 ロビー）

9 : 30～12 : 00

研究発表Ⅰ—1～4（28 号館 3 階）

12 : 00～12 : 50

総会（28 号館 3 階 28-301）

12 : 50～13 : 40

昼食

新・理事会（28 号館 3 階 28-305）

13 : 40～15 : 40

研究発表Ⅱ—1～4（28 号館 3 階）

15 : 50～17 : 50

ワークショップ 1～2（28 号館 3 階）

18 : 00～20 : 00

懇親会（28 号館 2 階 学内食堂）

第 2 日 7 月 3 日（日）

9 : 00～

受付（28 号館 3 階 ロビー）

9 : 30～12 : 00

研究発表Ⅲ—1～4（28 号館 3 階）

12 : 00～13 : 20

昼食

新・評議会（28 号館 5 階）

新・各種委員会（28 号館 5 階）

13 : 20～15 : 20

公開シンポジウム（28 号館 1 階 28-112）

特設ラウンドテーブル（28 号館 3 階）

15 : 30～17 : 30

ラウンドテーブル（28 号館 3 階）

ご案内

1. 会場

明星大学（日野校） 4・5ページの地図・案内図をご覧ください。

2. 大会実行委員会連絡先

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1

明星大学 人文学部 人間社会学科 高島研究室 気付

日本子ども社会学会 第18回大会実行委員会

TEL・FAX（兼用） 042-591-9398（高島研究室直通）

E-mail takashim@soci.meisei-u.ac.jp

入会、会費納入などに関する相談・問い合わせは、下記の日本子ども社会学会事務局へお願いします。

日本子ども社会学会 事務局

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1

九州大学教育学部 坂元研究室 気付

FAX：092-642-3151

郵便振替口座：01760-1-85048

E-mail：jscs@kodomo-cu.jp

学会ホームページ：<http://js-cs.jp/>

*事務局へのご連絡は、葉書、FAX、E-mail等で行います。

3. 大会参加申し込みおよび参加費

同封の参加申し込み葉書にて、6月25日（金）までにお申し込み下さい。

大会参加費 学会員 3,500円

臨時（当日）会員 3,500円

（公開シンポジウム、特設ラウンドテーブルのみ参加の場合は無料）

懇親会費 一般 4,000円 大学院生 3,000円

*今年度は事前の参加費等の振り込みは実施しません。

4. 受付

7月2日（土）・3日（日）9:00～16:00

明星大学28号館3階ロビーにて受付を行います。

5. 懇親会

7月2日（土）18:00～ 明星大学28号館2階学内食堂にて開催します。

参加費 4,000円 大学院生 3,000円

参加後希望の方は、同封の参加申し込み葉書にてお申し込み下さい。

6. 研究発表

個人（1人）発表20分・質疑応答5分・計25分、共同（発表者2人以上）発表40分・質疑応答10分・計50分とします。

7. 発表取り消し（欠席）

発表を取り消す（発表者が欠席する）場合は7月1日（金）までに大会実行委員会までメール等でお知らせ下さい。なお、発表取り消しについては「学会ニュース」にその旨掲載します。

8. 当日配布資料

レジュメ等当日配布資料を配布される場合は50部以上ご用意下さい。不足の場合でも、大会本部でのコピーはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。配布される場合は分科会名・氏名を明記し、各分科会の発表前に会場係りにお早めにご提出下さい。

9. クローク

7月2日（土）・3日（日）、28号館3階28-306講義室にてお預かりします。なお、貴重品はお預かりできませんので、必ず各自でお持ち下さい。

10. 会員休憩室

7月2日（土）・3日（日）、28号館3階28-306講義室に用意します。会員休憩室を含め校舎内は全面禁煙です。所定の喫煙場所をお願いします。

11. 昼食

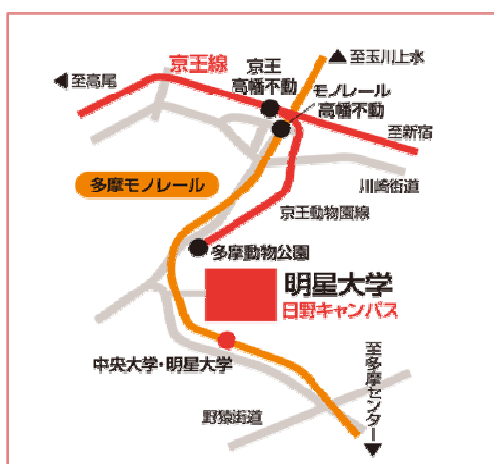
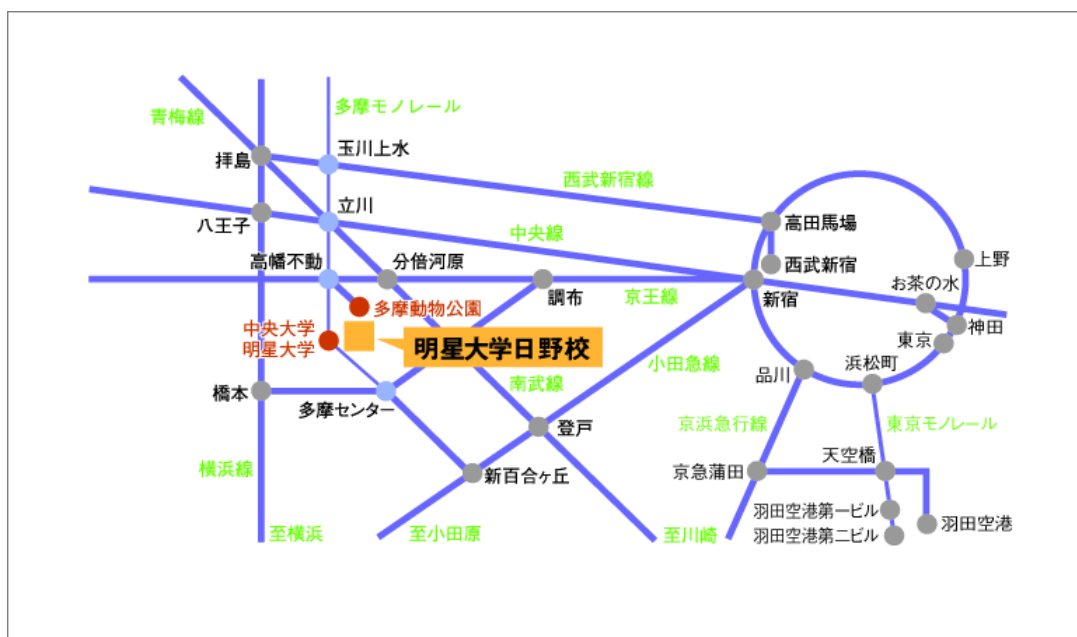
7月2日（土）は28号館2階学内食堂をご利用下さい（学生等一般利用者と一緒の利用となることを、あらかじめご了承ください）。

7月3日（日）は学内食堂は営業せず、近隣に食事をする店舗はありませんので、弁当を用意します。同封の参加申し込み葉書にてお申し込み下さい。1,000円（お茶付き）です。

12. 宿泊

大変申し訳ありませんが、大会実行委員会では宿泊は取り扱いません。先にお送りした「大会のご案内」をご参照いただき、各自でご予約下さい。

明星大学(日野校)へのアクセス



○空路利用（羽田空港から）

- ・東京モノレール利用＝羽田空港ビル駅―〈東京モノレール 18 分〉―浜松町駅―〈山手線 6 分〉―東京駅―〈中央線 42 分〉―立川駅…〈徒歩 3 分〉…立川南駅―〈多摩モノレール 16 分〉―中央大学・明星大学
- ・京浜急行線利用＝羽田空港駅―〈京浜急行 18 分〉―品川駅―〈山手線 13 分〉―新宿駅―〈中央線 35 分〉―立川駅【以下同上】
- ・新宿駅から京王線も利用できます。【下記】

○東京駅から

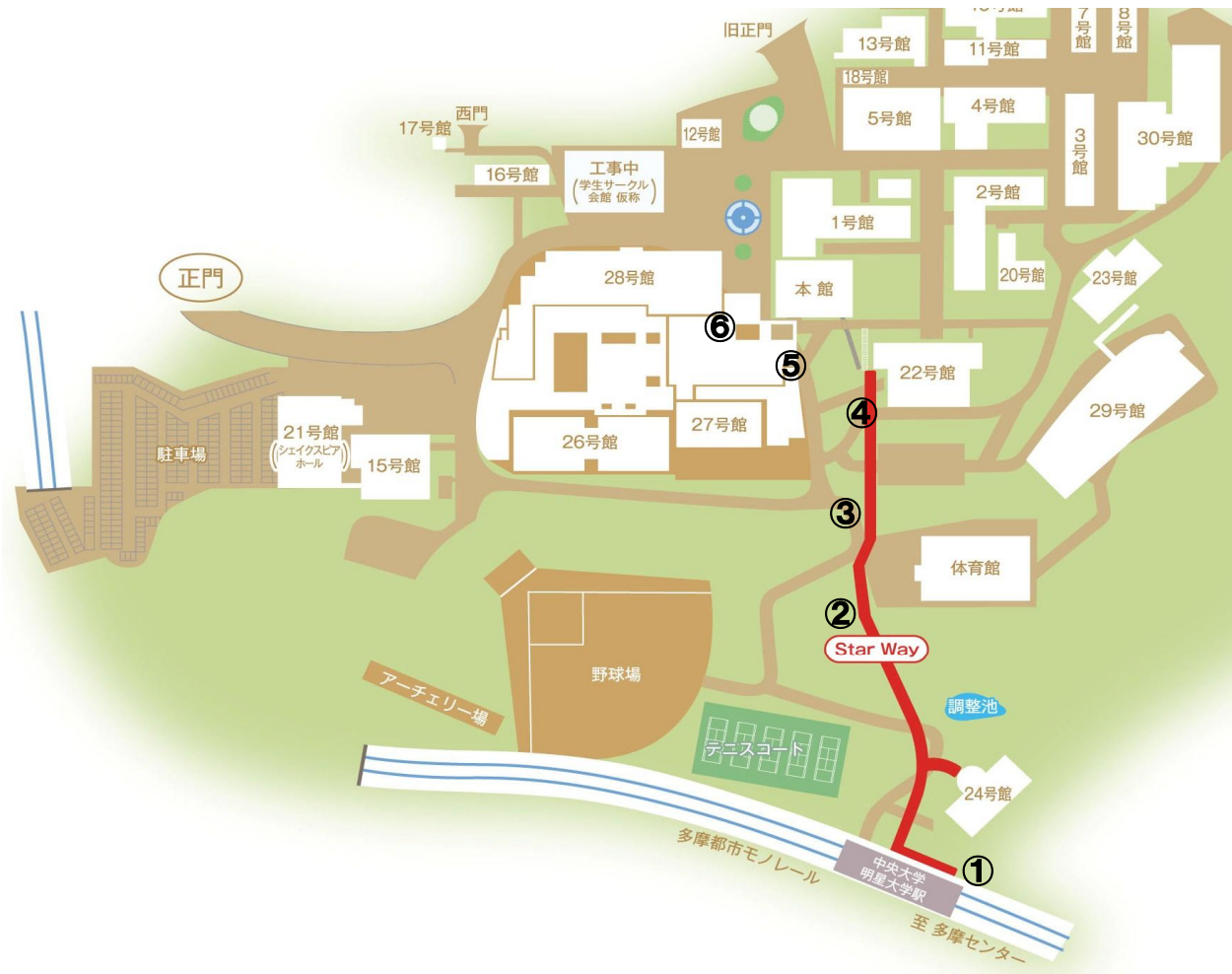
- ・JR 中央線利用＝東京駅―〈中央線 42 分〉―立川駅…〈徒歩 3 分〉…立川南駅―〈多摩モノレール 16 分〉―中央大学・明星大学
- ・京王線利用＝東京駅―〈中央線 13 分〉―新宿駅―〈京王線 30 分〉―高幡不動駅…〈徒歩 3 分〉…高幡不動駅―〈多摩モノレール 7 分〉―中央大学・明星大学

○小田急線・神奈川方面から

- ・小田急線方面から＝〈小田急多摩線〉多摩センター駅…〈徒歩 3 分〉…多摩センター駅―〈多摩モノレール 6 分〉―中央大学・明星大学駅
- ・JR 横浜線方面から＝橋本駅―〈京王相模原線〉―多摩センター駅【以下同上】

* 所要時間は電車の種別・曜日などで異なりますので、ご注意ください。

明星大学校内案内図



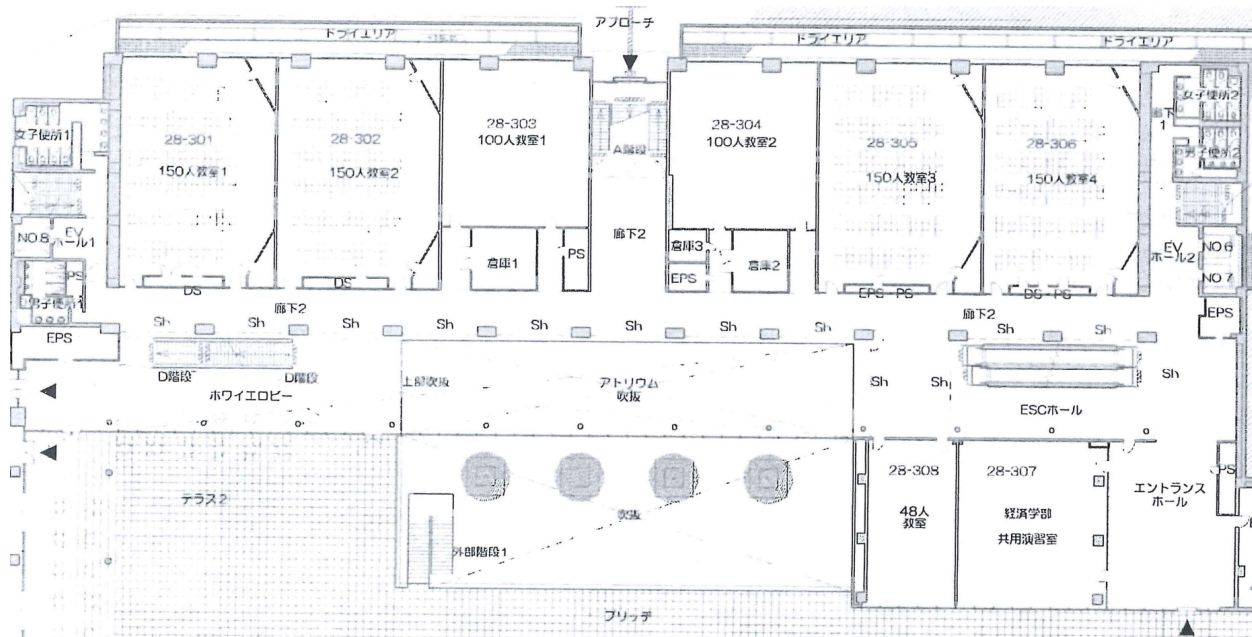
多摩モノレール「中央大学・明星大学」駅から会場への順路

- ① 多摩モノレール「中央大学・明星大学」駅改札口（1箇所）を出て左（「明星大学方面」の表示あり）へ。
- ② 通路（2階）を通過、1台目のエスカレーターを上がる。
- ③ 通路を進み、2台目・3台目のエスカレーターも上がる。
- ④ 3台目のエスカレーターを降りた所（22号館（大学会館）入り口の前）を左へ、階段の踊り場に出る。
- ⑤ 右へ、階段を上がる。
- ⑥ 広場を通過、28号館南側入り口へ（この階が3階になる）。

会場案内図

28 号館 3 階

28-301 28-302 28-303 28-304 28-305 28-306



28-308 28 号館
3階入り口
【受付】

28-301	28-302	28-303	28-304
研究発表Ⅰ-1	研究発表Ⅰ-2	研究発表Ⅰ-3	研究発表Ⅰ-4
総会	研究発表Ⅱ-2	研究発表Ⅱ-3	研究発表Ⅱ-4
研究発表Ⅱ-1	ワークショップ 2	研究発表Ⅲ-3	研究発表Ⅲ-4
ワークショップ 1	研究発表Ⅲ-2	特設ラウンドテーブル	ラウンドテーブル
研究発表Ⅲ-1			

28-305	28-306	28-308
新・理事会	会員休憩室	学会本部
	クローク	大会実行委員会本部
	(ご自由にご利用下さい)	

1. 新・評議会、新・委員会等は、28 号館 5 階講義室
2. 公開シンポジウムは、28 号館 1 階 28-112 講義室

研究発表 I

7月2日(土) 9:30～12:00
28号館 3階 28-301講義室

I-1 理論研究

司会 萩原 元昭(創造学園大学)
加野 芳正(香川大学)

- 9:30～9:55 子どもは多文化的／多文化化社会をいかに学びうるか
—小学校社会科教科書にみる記述内容の分析を通して—
児玉 弥生(北九州市立大学)
- 9:55～10:45 ルソーの子ども観(5)
I. 市民の形成と子どもの問題
原田 彰(広島文化学園大学)
II. 社会と教育の「思想」と子ども
望月 重信(明治学院大学)
- 10:45～11:20 子ども研究における「解釈的アプローチ」の軌跡
池田 隆英(岡山県立大学)
- 11:20～12:00 総括討論

研究発表 I

7月2日(土) 9:30～12:00
28号館 3階 28-302講義室

I-2 学校教育と子ども

司会 新富 康央(國學院大學)
馬居 政幸(静岡大学)

- | | |
|-------------|---|
| 9:30～9:55 | 学級集団内における人間関係の序列化の生成と維持
鈴木 翔(東京大学大学院) |
| 9:55～10:20 | 総合学科高校生の学習観と学校観
南本 長穂(関西学院大学) |
| 10:20～10:45 | 習熟度別クラス編成授業と進学アスピレーション
—ある高等学校の取り組みから—
坂野 誠(同志社大学大学院) |
| 10:45～12:00 | 総括討論 |

研究発表 I

7月2日(土) 9:30～12:00
28号館 3階 28-303講義室

I-3 子どもの保育

司会 中坪 史典(広島大学)
香曾我部琢(上越教育大学)

- 9:30～9:55 「境」としてのテラスは幼児にとって
どのような場所となりうるか
境 愛一郎(広島大学大学院)
- 9:55～10:20 幼保一元化にともなう保育現場の課題
—兵庫県多可町「キッズランドやちよ」を事例として—
向平 知絵(京都女子大学大学院)
- 10:20～10:45 放課後児童健全育成事業法制化以前における
学童保育に関する意味形成の研究
—『日本の学童はいく』における「生活の場」としての
学童保育に着目して—
鈴木 瞬(筑波大学大学院)
- 10:45～12:00 総括討論

研究報告 I

7月2日(土) 9:30～12:00
28号館 3階 28-304講義室

I-4 児童文化・子ども文化 1

司会 細辻 恵子(甲南女子大学)
小針 誠(同志社女子大学)

- 9:30～9:55 明治期の幼児教育関連出版物の
地理的・政治的な布置に関する考察
金子 嘉秀(広島大学大学院)
- 9:55～10:20 伝統人形劇の伝承(2)
—黒田人形を中心に—
松崎 行代(飯田女子短期大学)
- 10:20～10:45 レフ・ミリチン『鉛の兵隊』にみる
アニメーション表現の特徴
糸井 嘉(京都女子大大学院)
- 10:45～12:00 総括討論

研究発表 II

7月2日(土) 13:40～15:40
28号館 3階 28-301講義室

II-1 セーフティネットとしての学校

司会 永井 聖二(東京成徳大学)
飯田 浩之(筑波大学)

13:40～14:05 後期中等教育におけるセーフティネットでの不平等
—高等専修学校へのヒアリング調査より—
伊藤 秀樹(東京大学大学院)

14:05～14:30 セーフティネットとしての学校教育
寺崎 里水(福岡大学)

14:30～15:40 総括討論

研究発表 II

7月2日(土) 13:40～15:40
28号館 3階 28-302講義室

II-2 子どもの非行

司会 山縣 文治(大阪市立大学)
田中 理絵(山口大学)

13:40～14:05 非行少年の「セカンドチャンス」を構築する教育実践
ーカリフォルニア・ティーンコートに関する
参与観察研究からー
古賀 正義(中央大学)

14:05～14:30 児童養護施設における暴力の実態
ー質問紙調査の分析からー
○山口 季音(関西大学大学院)
多賀 太(関西大学)
吉田 由以(関西大学大学院)
狩野 博美(関西大学大学院)

14:30～15:40 総括討論

研究発表 II

7月2日(土) 13:40～15:40
28号館 3階 28-303講義室

II-3 児童文化・子ども文化 2

司会 宮川 健郎(武蔵野大学)
山田 浩之(広島大学)

13:40～14:05 スポーツマンガとジェンダー(2)
ーバレーボールマンガの分析ー
藤田由美子(九州保健福祉大学)

14:05～14:30 保育者養成課程における紙芝居
鬢櫛久美子(名古屋柳城短期大学)
○野崎 真琴(名古屋柳城短期大学)

14:30～15:40 総括討論

研究発表 II

7月2日(土) 13:40～15:40
28号館 3階 28-304講義室

II-4 保育者養成

司会 青井 倫子(愛媛大学)
小川 博久(聖徳大学)

13:40～14:05 保育者効力感と保育者の成長プロセス
香曾我部琢(上越教育大学)

14:05～14:30 幼児教育・保育分野を目指す男子学生に関する考察
中村三緒子(日本女子大学)

14:30～15:40 総括討論

ワークショップ 1

7月2日(土) 15:50～17:50
28号館 3階 28-301講義室

「困難を有する子ども」の現状を考える

(公開シンポジウムプレ企画)

司 会	古賀 正義 (中央大学)
報 告 者	古賀 正義
	山縣 文治 (大阪市立大学)
指定討論者	加野 芳正 (香川大学)

本年度の公開シンポジウムでは、「困難を有する子ども」の支援を問いかけてみることにしているが、そのプレ企画として前日に「困難を有する子ども」の現状を検討してみたい。発表者は、シンポジウムのコーディネーターを務める古賀と、指定討論者である山縣であり、それぞれ教育社会学と子どもの福祉の立場から、子どもを取り巻く社会環境の変化と政策の現状を問いかける予定である。コメンテーターとして、加野から鋭い突っ込みを頂く手はずである。

公開シンポジウムで、堤先生や中西先生に質問したいことや意見を聞きたいことなどをお持ちの方は、ぜひ参加してほしい。

ワークショップ 2

7月2日(土) 15:50～17:50

28号館 3階 28-302講義室

「子ども社会」とは何か？

(20周年記念事業関連企画)

司 会	山田 浩之 (広島大学)
報 告 者	元森絵里子 (明治学院大学)
	磯崎三喜年 (国際基督教大学)
	田中 理絵 (山口大学)
指定討論者	望月 重信 (明治学院大学)
	山田 富秋 (松山大学)

子ども社会学会は学際性の高い、さまざまな研究領域の集合体でもある。それゆえ、子ども社会をめぐる議論は、必ずしも共通の土俵で行われるわけではなく、時に錯綜することもある。だが、多様な領域の集合体であるからこそ、子ども社会研究は既存の枠組みを越える斬新な視点をもたらすことができる。個々の領域の壁を越えて、「子ども社会」が組み替えられる、ダイナミックで、そしてスリリングな研究領域だと言えよう。

本ワークショップは、昨年の「子ども社会研究とは何か—その学際性と多様性を探る」で提示された課題に応えようとするものである。昨年のワークショップでは、心理学、教育社会学、児童福祉、文化論などの立場から、子ども社会研究について議論を行なった。そこでの議論は、たいへん興味深いものであった一方、それぞれの領域で語られる「子ども社会」とは何かという大きな課題も残された。そこで、本ワークショップでは、各領域の最前線で活躍されている研究者の方々に、それぞれの立場から「子ども社会」とは何か？という問いへの回答を提出していただくことにしたい。それを踏まえ、子ども社会研究の課題を明らかにするとともに、その成果と可能性について議論したい。

研究発表Ⅲ

7月3日(日) 9:30～12:00
28号館 3階 28-301講義室

Ⅲ-1 国際比較研究

司会 岩田 遵子(東京都市大学)
岡本 富郎(明星大学)

9:30～10:20 子どものセルフ・エスティームに関する日中韓比較調査研究

○伴 恒信(鳴門教育大学)
○岩寄 毅(鳴門教育大学大学院)
○劉 麗那(昭和女子大学大学院)
○宮内 宏子(鳴門教育大学大学院)
○馬居 政幸(静岡大学)
○醍醐 身奈(昭和女子大大学院)
押谷 由夫(昭和女子大学)

10:20～10:45 保育意識についての比較調査
—東京・ソウル・フフホト—

○深谷 野亜(松蔭大学)
朴 珠鉉(東京家政大学)
周 建中(東京成徳大学)
深谷 昌志(東京成徳大学)

10:45～12:00 総括討論

研究発表Ⅲ

7月3日（日） 9：30～12：00
28号館 3階 28-302講義室

Ⅲ-2 子育て支援

司会 岡崎 友典（放送大学）
川北 典子（平安女学院大学）

- 9：30～9：55 〈育児〉言説の遂行力
—ケンウッド事件と明治図書出版事件の比較から—
東野 充成（九州工業大学）
- 9：55～10：20 米国のコミュニティ・カレッジにおける親教育
—カリフォルニア州を事例として—
藤井 美保（熊本大学）
- 10：20～10：45 子どもの育成を通じた地域づくりの試み
—沖縄県読谷村の事例から—
春日 清孝（明治学院大学・非）
- 10：45～12：00 総括討論

研究発表Ⅲ

7月3日（日） 9：30～12：00
28号館 3階 28-303講義室

Ⅲ-3 障害を持つ子どもへの支援

司会 垣内 國光（明星大学）
藤田由美子（九州保健福祉大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30～9：55 | 戦後日本における障害児保育の展開
末次 有加（大阪大学大学院） |
| 9：55～10：20 | 戦後日本における障害幼児支援に関する一研究Ⅳ
田中 謙（東京学芸大学大学院） |
| 10：20～10：45 | 特別支援学校における職業教育
塩田 公子（元・東京医療保健大学） |
| 10：45～12：00 | 総括討論 |

研究発表Ⅲ

7月3日(日) 9:30～12:00
28号館 3階 28-304講義室

Ⅲ-4 児童文化・子ども文化 3

司会 加藤 理(東京成徳大学)
棚橋美代子(京都女子大学)

- 9:30～9:55 現代の子どもたちのおけいごと事情
—ダンス教室でのアンケート調査をもとに—
小針 誠(同志社女子大学)
- 9:55～10:20 「学校の怪談」の内容分析
吉岡 一志(山口県立大学)
- 10:20～10:45 小中移行時の学校文化の変化と居心地
—中1ギャップの再解釈—
御旅屋 達(東京大学大学院)
- 10:45～12:00 総括討論

公開シンポジウム

7月3日（日） 13：20～15：20
28号館 1階 28-112講義室

「困難を有する子ども」の支援を問いかける

コーディネーター	教育社会学者	古賀 正義（中央大学）
司会		古賀 正義
発表者	「アメリカの現状から」	
	ジャーナリスト	堤 未果
	「日本の現状から」	
	社会学者	中西新太郎（横浜市立大学）
指定討論者	子ども福祉研究者	山縣 文治（大阪市立大学）

当シンポジウムでは、「困難を有する子ども」の支援を問いかけてみたい。
2010年発表された政府の「子ども・若者ビジョン」に待つまでもなく、今日子どものおかれた社会環境は厳しさを増しており、教育格差や就業環境が一層深刻化し、子ども・若者への具体的で実践的な社会支援が必要とされている。とりわけ、児童虐待やひきこもりなど、「家庭の孤立化・脆弱化」のなかで子ども問題が抜き差しならない状態へ追い込まれていくケースも多く、貧困や社会的排除などこれまでわが国が直視してこなかった社会環境の変質が子どもを抱える家庭あるいは地域社会を直撃している現状も看過できなくなっている。

そこで、シンポジウムでは、各界の第一線で活躍しているお二人をお招きして、日本とアメリカでの子どもを取り巻く家庭や社会の現状をお話しいただき（各自約20分間）、それに即した社会支援の在り方を話し合ってみたいと思っている。

後援：

公開シンポジウムについては、日野市教員委員会、八王子市教育委員会、多摩市教育委員会後援（申請中）。

お願い：

著作権・肖像権保護の観点から、会場における録音・撮影等をお断りします。ご理解・ご協力をお願いいたします。

特設ラウンドテーブル

7月3日（日） 13：20～15：20

28号館 3階 28-303講義室

教育支援人材(こどもサポーター)育成の課題

コーディネーター	深谷 昌志（東京成徳大学）
基調提案	松田 恵示（東京学芸大学）
パネリスト	新富 康央（國學院大學）
	有村 久春（帝京科学大学）
	中田 周作（中国学園大学）

平成20年度から、文部科学省の支援を受け、6大学（東京学芸大学、奈良教育大学、鳴門教育大学、東京成徳大学、白梅大学、中国学園大学）が連携して、教育支援人材養成のあり方を模索してきました。具体的には、地方自治体の協力を得て、各地で「こどもサポーター」の養成事業を展開してきました。

3年間の試行期間を経て、本年6月に「教育支援人材認証協会」が発足し、これから先、多くの大学のご参加のもとに、教育支援人材養成が全国的にスタートされようとしております。

こうした「こどもサポーター」養成は、本学会としても積極的に関与してよい領域だと考えられます。しかし、6大学関係者を除くと、本事業の趣旨などが周知されていないように思われます。

そこで、本ラウンドテーブルでは、本事業の概要を説明すると同時に、これまでの研修事業を紹介し、あわせて、今後の課題を洗い出したいと考えています。

本事業に関心を寄せる大学は多いので、これから先、先生方の大学でも話題になるかと思われます。それだけに、子どものサポートなどに関心をお持ちの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

ラウンドテーブル

7月3日（日） 15：30～17：30
28号館 3階 28-304講義室

子ども文化の学際的研究の可能性を求めて

司 会 報 告 者	加藤 理（東京成徳大学）
	上 笙一郎（児童文化研究者）
	麻生 武（奈良女子大学）
	南出 和余（桃山学院大学）
	山縣 文治（大阪市立大学）
指定討論者	吉岡 一志（山口県立大学）
	鵜野 祐介（梅花女子大学）
	針塚 瑞樹（筑紫学園大学）

子ども文化研究には、児童文化研究、歴史学、民俗学、文化人類学、心理学、教育学、社会学、社会福祉学、生物学等、さまざまな領域からのアプローチが可能である。

これまでの先行研究でも、子ども文化に対してさまざまな領域からのアプローチがなされ、刺激的な研究成果が報告されてきた。だが、学際的研究を標榜して子ども文化に迫った研究はさほど多くはない。

そこで、本ラウンドテーブルでは、児童文化・児童史、心理学、文化人類学、社会福祉学、社会学、それぞれの立場から子ども文化に迫る可能性を報告してもらい、学際的研究として子ども文化を追求する可能性を摸索する。

日本子ども社会学会 第18回大会 実行委員会

実行委員長	高島 秀樹	(明星大学)
実行委員	古賀 正義	(中央大学)
	岡本 富郎	(明星大学)
	味形 修	(明星大学)
	垣内 國光	(明星大学)
	石田健太郎	(明星大学)

日本子ども社会学会 第18回大会 プログラム

発行 2011年5月

発行者 日本子ども社会学会 第18回大会 実行委員会

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1

明星大学 人文学部 人間社会学科 高島研究室 気付

TEL・FAX (兼用) 042-591-9398 (高島研究室直通)

E-mail takashim@soci.meisei-u.ac.jp